

教材・支援機器活用実践事例

【コミュニケーションや身体の動きを引き出す生活単元学習の指導】

	実施年度	平成 28 年度	
授業について	教科名等	生活単元学習	
	単元・題材名	「段ボールであそぼう～大型滑り台～」	
	授業における教師のねらい	<p>○自分から活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>○自分のできる動きを使って滑り台を滑ることができるようにする。</p> <p>○自分の気持ちだけでなく、要求も伝えることができるようにする。</p>	
	授業における子どもの目標	<p>○段ボールや段ボールで作った遊具に興味をもち、自分から活動に取り組むことができる。</p> <p>○滑り台を使った活動に取り組む中で、自分の要求を表情や発声、しぐさなどで教師に伝えることができる。</p>	
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校 小学部 重複障がい学級 5 学年	
	対象の障がい	肢体不自由、知的障がい	
	授業形態	集団学習（学級）	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>A：車いす使用。身体を動かすことが好き。自分で動きたいという気持ちが強い。</p> <p>B：独歩。歩行が不安定なときもあるが、階段の昇降ができるようになった。</p> <p>C：独歩。段差のあるところも教師と手をつなぐと安心して歩くことができる。</p>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>(1) 丸太</p> <p>(2) 積み木</p> <p>(3) 滑り台</p>	 <p>(1) 丸太 (2) 積み木 (3) 滑り台</p>
	活用のねらい	<p>○ダイナミックな動きのある活動が好きのため、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○簡単で見通しのもちやすい活動であるため、安心かつ集中することができる。</p> <p>○「自分でやった」という達成感を感じたり、「自分が動いたことで周りを変化する」という経験をしたりすることで、自分の身体を意識することができる。</p> <p>○この単元で得られた達成感や身体への意識が、他の活動場面でも自分で身体を動かすことやバランスをとって上手に身体を動かすことにつながる。</p>	
授業における支援・教材の配慮事項		<p>○児童自らの動きが引き出しやすくなるよう、教師と一緒に準備運動をしたり、段ボールの積み木を使って身体を動かしたりする時間を設定する。</p> <p>○安全に自由に身体を動かすことができるよう、斜面部分の広さを十分に確保する。</p> <p>○安心して活動に取り組むことができるよう、教師や上手に滑ることができる友達が手本を示したり、手を貸して一緒に台に上ったりする。</p>	
子どもの変容や評価		<p>○3 名とも笑顔でたくさん声を出しながら、楽しく活動に取り組むことができた。</p> <p>○「もっとやりたい」という気持ちや「手伝ってほしい」という要求を、発声やしぐさ、表情といった自分なりの方法で教師に伝えることができた。</p> <p>○自分から活動に取り組んだり、滑り方を工夫したりする姿が見られた。</p> <p>○身体の使い方が上手になった（A 児→歩行器(SRC)を使った移動につながった）。</p> <p>○授業以外でも自分達から進んで滑り台で遊ぶようになった。</p>	

